

令和7年度学校評価表

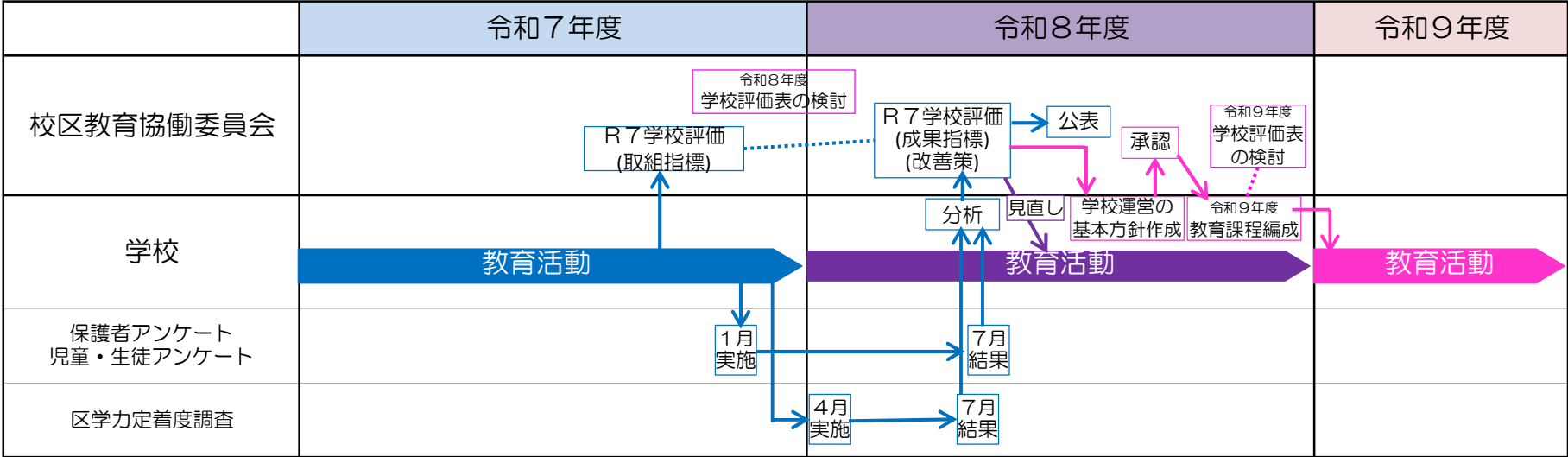
品川区立第一日野小学校	校長	大関 浩仁 齊藤 直彦
第一日野小学校校区教育協働委員会	委員長	西谷 尚徳

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和7年度 学校評価 品川区立第一日野小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		【基礎学力の定着】 ・品川区立学校教育要領に示されている各教科の学習指導の内容を基礎的・基本的な事項として捉え、年間指導計画に従って1年生から6年生まで系統的に学習を進める。 【重点的な実践内容】 ・授業に向かう態度や姿勢の指導。 ・授業の導入や展開、教材、発問、板書など、指導内容や方法を工夫、改善し、学習意欲を高める授業づくり。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童は落ち着いた態度(聞く・話す・着席・姿勢)で、真剣に学習を進めている。(8割以上の児童が身に付けている)	概ね、8割以上の児童が達成できているが、学年によっては、学習態度に課題が見られる。	B	・児童、教員ともに、改めて「学校のきまり」を共通理解し、学習規律の徹底を図る。児童に指導する際には、きまりだけでなく、その必要性や教育的価値も理解できるようにする。できている子を認め褒めながら、児童の行動を価値付け、自己肯定感の育成を図る。
	・教師は授業中の約束を確認し、発達段階に応じて適時指導し、守らせている。特に、字を丁寧に書かせるよう下敷きを敷く指導を徹底している。	授業の約束は、その都度確認したり、学習規律を高めるために再度確認したりしてきた。下敷きを敷く指導は今度も継続して指導していく。		
②	児童は、最後まであきらめずに学習に取り組む、学習の仕方を身に付けている。	集中して学習に取り組める児童は増えているが、学年差・個人差は見られる。	B	・校内研究や研修を通して、教員の指導力向上を図る。授業のねらいと評価を明確にして、児童の学習意欲を高める。個別に指導が必要な児童に対しては、外部人材も活用していく。 ・休み時間に入る際に、先に次の授業の準備ができるよう、声を掛けながら習慣付けていく。休み時間と授業の切り替えを素早くできるようにすることで、授業への集中力を高めていく。授業に必要な道具の忘れ物が多い児童に対しては、保護者に協力を求めていく。
	・毎時間のねらいを明確にして授業を行っている。	どの学年もねらいを明確にして行ってきた。次時につなげるように授業の流れを計画立ててきた。		
	・ノート、教科書等の学習用具の準備がされているかを確認してから授業に入る。	学習用具が揃わない児童は一定数いる。家庭への協力・啓発を継続していく必要がある。		
③	家庭学習や「きらきらタイム」(朝の時間)に積極的に取り組んでいる。	家庭学習の取組は個人差がある。きらきらタイムは、計画的に運用することができた。	B	・タブレットを活用し、個に応じた課題を設定することで、学習の習慣化を図る。 ・家庭学習に関しては、保護者会や個人面談を通して、保護者への協力を仰ぐ。
	・家庭学習で、発達段階や学習状況に応じた課題を出し、学習の習慣化を図るようにしている。	10分×学年を設定し、家庭学習の質や量を決めて提示してきた。		

A＝十分達成できた B＝おおむね達成できた C＝未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		【社会性・人間性の育成】 ・市民科授業を要として全教育活動を通して、人として当たり前のことが当たり前に行える児童を育てる。また、これからの社会を生きていくために必要な事柄を習得し、日常生活の中で実践できる児童を育てる。 【重点的な実践内容】 ・「規範意識の向上と道徳的实践」をキーワードに、正しい挨拶と正しい言葉遣いなど、礼儀作法を身に付ける。 ・「自律」「自立」「公德心」「向上心」につながる市民科の自己管理・道徳実践・自他理解・集団適応能力を身に付ける。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	上級生は、下級生に優しく接することができる。(特に言葉掛け)	6年生は1年生のお世話を通して、低学年への接し方を体験的に学ぶことができている。	B	・全般的には達成できていたが、学年によって一部達成状況に相違が見られた。引き続き、たてわり班活動等の交流を通して、上級生が下級生をリードする自主的な活動を計画していく。 ・併設施設の利点を生かし、すこやか園4歳児・5歳児との交流も積極的に行う。
	・クラブ活動や委員会活動、たてわり班活動等の異学年・異年齢集団での活動を計画的に実施する。	6年生に負担にならない程度にクラブ活動、委員会活動、たてわり班活動を実施してきた。		
②	児童は、生活の約束を守り、友達と仲良く楽しく生活している。	生活の約束の中で、廊下歩行やタブレットの使い方は課題が見られる。	B	・挨拶に関しては、校外の人にも丁寧に対応できている児童が増えてきた。まずは、教職員が児童への手本を示す。また、日常的に挨拶の大切さを指導し、定着を図る。 ・廊下歩行は、引き続きの課題である。安全面など、落ち着いた行動の大切さをきちんと理解させていく。まずは、教室移動の時に静かに行動できるよう学級指導を徹底する。
	・学校全体で「挨拶」「返事」「靴揃え」の3項目に重点的に取り組ませる。挨拶は登校時だけでなく、校内での挨拶・会釈を高める指導を行う。	あいさつ・会釈は、年々できるようになっている。返事、靴そろえについては、各学年声掛けは必要である。		
③	礼儀の作法を正しく身に付ける。廊下や階段の歩行を静かに行ったり、年上の人に対して正しい言葉づかいができたりする。	礼儀作法については、学級や学年で話し、少しずつよくなっていると感じられる。正しい言葉遣いについては、学年に応じて指導を継続していく必要がある。	B	・礼儀作法は、市民科を活用し、遠足・社会科見学などの校外学習やゲストティーチャーを迎えての授業で意識付けていく。
	・全校朝会や集会等を通して、礼儀、場に応じた行動など、児童にしつけるべきことをしっかりと指導している。	場に応じた行動の仕方を継続して指導してきた。		

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立第一日野小学校
評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		【体力の向上】 ・心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進および体力の向上を図る。 【重点的な実践内容】 ・校内研究を通じて、教師の体育の授業力を高め、よりよい体育学習を実践・展開する。 ・「運動の必要性を理解し、自ら積極的に運動する」ために、児童の興味・関心・意欲を高め、学ぶ楽しさを味わわせる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	基本的な生活習慣が身に付いて、安全や健康に気を付けている。	起床・就寝時間、タブレットの扱い方については、生活習慣の捉え方に差を感じる。	B	・登校時、遅れて登校してくる児童が一定数いる。家庭とも連携しながら、生活リズムも含めて個別に指導していく。 ・長期休みの過ごし方の指導はもちろんのこと、休み明けに生活リズムが取り戻せるよう、児童の様子を見ながら声を掛けていく。
	・長期休業前や、保護者会・個人面談・地域活動の場で、保護者・家庭・地域へ働きかけ、基本的な生活習慣の改善・充実を図る。	長期休業中の過ごし方については、生活指導部から出されている資料をもとに学級・学年で指導を行っている。		
②	自ら積極的に身体を動かすことや運動に取り組んでいる。	天気がいい日は、第1グラウンド・第2グラウンドで遊んでいる。	A	・多くの児童が休み時間に外遊びをしていて、体力向上だけでなく、社会性を育む時間にもなっている。 ・テクニカルアドバイザーのより効果的な活用方法を検討し、体育の年間計画の改善を図る。
	・児童に対し、休み時間の外遊びを推奨する。	天気がいい日は外で遊ぶようにし、教師も一緒に遊んでいる場面を多く見られる。		
	・子どもたちの心身の健康に配慮した指導を行っている。	体育の授業時や保健の授業を活用して、健康についての指導を行っている。		

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立第一日野小学校

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		【いじめ防止】 いじめは決して許されない人権侵害行為である。しかし、いじめは、どの学年・どの学級でも起こり得るものである。教職員一人一人が、いじめの問題の重大さを認識し、いじめの兆候を見逃さず、迅速かつ的確に対応する。 【重点的な実践内容】 ・いじめは決して許されないことであり、いつでもどこでも誰にでも起きるという高い危機意識で指導する。 ・日頃から児童の行動を十分に観察するとともに生活アンケート等を実施し、危険信号を見落とさないようにして、いじめの早期発見に努める。 ・いじめ発生時は、校長のリーダーシップのもと教職員の断固たる姿勢を示し、綿密な情報交換を行い、関係諸機関や保護者と連携して組織的に対応する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	いじめは人権侵害行為であり、決して許さないという強い認識をもつ。	教職員の研修会や生活指導夕会、区が導入したツールを生かして、児童の人権意識を高めることができた。	A	・年3回実施した「いじめ防止の授業」の指導方法や効果の検証を確実にを行い、次年度に生かす。 ・あらゆる場面・機会を通して日常的に人権感覚を育てるとともに、人権週間では、校長講話や校内掲示等、意図的に子どもたちに働きかけて、人権意識を高める。
	・授業のみならず教育活動全体を通して、「いじめはいけない、許さない」ということを繰り返し指導する。	いじめ防止に関する授業や人権集会等を通して、互いを思いやる大切さを伝えてきた。		
②	日常の児童間の問題について、児童が早期に身近な大人にSOSを出すことができる。	SOSの出し方に関する指導は、事前の相談も含め、問題が起きてからも迅速に対応が行うことができた。	A	・区の施策である「いじめ未然防止」のための日々の児童観察や実態調査等のデータを確実に把握・対応し、未然防止・早期発見に努める。 ・必要に応じて、迅速に校内委員会を立ち上げ、組織的に早期対応を行う。 ・外部機関との連携を継続し、多くの目で児童を見守る。
	・区が導入した「いじめ調査ツール」を活用したアンケートを継続的に実施し、ネガティブな回答に対しては個別に詳細を聞き取るなどして実態把握に努め、具体的方策をもって取り組む。	必要に応じて聞き取りを行い、事実・原因・経緯等を確認していった。内容によっては、学年や学校全体で共有し、問題解決に向けて方策を立てて行った。		
	・担任だけでなく、全教職員で児童の行動観察を行い、情報を共有していく。	生活指導夕会、校内委員会、特別支援委員会での情報共有によって、他学年の児童の状況を理解することができた。		
③	いじめが発生した時の関係者・関係機関との連携・協力体制を確立する。	いじめに関する研修会等でいじめの定義を教職員で確認したり、いじめの可能性がある場合は全教職員で共通理解を図ったりしてきた。	A	・定期的な研修を通して、区や学校の「いじめ防止対策基本方針」を教職員全員がきちんと理解するとともに、保護者にも保護者会や学校HP等を通して、理解を促していく。
	保護者会や校区教育協働委員会等を通して、学校の現状や取組を家庭・地域に伝え、緊密な連携・協力体制をつくり、健全育成を図る。	保護者会等を活用して、学校の現状を伝えてきた。学校・家庭・地域の役割を確認し、児童の健全育成につなげていった。		

A＝十分達成できた B＝おおむね達成できた C＝未達成

令和7年度 学校評価 品川区立第一日野小学校

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		【特別支援教育ならびに保幼小連携活動の充実】 ・共生社会の形成、インクルーシブ教育システムの充実を目指す。 ・保幼小一体施設の特色を生かした、児童と園児の交流活動を推進する。 【品川コミュニティ・スクールの充実】 ・PTAやサポーターズ、地域と連携した活動と一緒に推進する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	通常の学級の児童と、特別支援学級の児童が定期的に交流し、障害者理解を深める。	通常学級と特別支援学級の児童の交流・共同学習を充実させることができた。	A	・引き続き保護者と連携しながら、積極的に、児童一人一人のニーズと特性に応じた交流及び共同学習を行っていく。その教育的効果を教員間で共有する。
	・保護者のニーズに応じて、通常の学級と特別支援学級の児童の交流活動を意図的・計画的に実施する。	保護者と面談から希望を聞き、通常学級との交流や共同学習を進めることができた。		
②	小学生が、保育園・幼稚園の園児と定期的に交流し、上級生の自覚・優しい心情を身に付ける。	併設されている幼稚園児・保育園児との交流を計画的に進めることができた。年下の子どもたちとの接し方を体験的に学ぶことができた。	A	・引き続き、積極的な交流を図っていく。その際、児童にめあてをもたせたり、活動を振り返らせたりすることを丁寧に行う。 ・計画を立てるときは、小学校教員とすこやか園保育者との両方の目的をしっかりと共有する。
	・本校児童と、保育園・幼稚園児による交流活動を毎学期実施する。(5・5交流、4・4交流、1・5交流、ひまなか交流 等)	毎学期、計画通りに交流を行うことができた。回を重ねるごとに、交流の仕方も上手になっていく様子が見られた。		
③	コミュニティ・スクールや地域のイベントに参加し、学校や地域に愛着をもつとともに、感謝の思いを深める。	PTAや地域のイベントに、多くの児童・保護者が参加していた。	A	・多くの児童、保護者がイベントに参加している。運営している方々への感謝の気持ちをきちんともたせたい。 ・企画、準備の段階で卒業生保護者がほとんどを占め、在校生保護者が少ないのが課題である。また、芝生校庭の維持を引き続き行っていく必要がある。お手伝いの呼びかけを学校としても協力していく。
	・コミュニティ・スクールや地域と連携を図りながら、子どもたちが楽しめるイベントをともにつくっていく。	PTAや一日野サポーターズが企画したイベントを行うことができた。		

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成